

平成 18 年 4 月 27 日

各 位

> 上場会社名 表 者 先

問 合 せ 電 話 番 号 当社の親会社 代 表 者

ニッシン債権回収株式会社 代表取締役社長 天野量 公 (東証マザーズ コード番号:8426) 経営企画部長 経 営 企 画 部 長 山 口 達 也 (東京) 0 3 - 5 3 2 6 - 3 9 7 1 株式会社ニッシン 代表取締役社長兼 嵜 岡 邦 彦 執 行 役員 (東証第一部 コード番号:8571)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 18 年 2 月 6 日に公表しました、平成 18 年 3 月期 (平成 17 年 4 月1日~平成18年3月31日)の業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたしま す。

記

1.平成18年3月期業績予想(連結・個別)の修正(平成17年4月1日~平成18年3月31日)

# (1)連結業績

(単位:百万円)

			営業収益	経常利益	当期純利益
前回	発表 予	想(A)	16,404	3,209	1,860
今回	修正予	想 ( B )	15,900	4,000	2,300
増	減	額(B - A)	504	791	440
増	減	率(%)	3.1	24.6	23.7
前期実績 (平成17年3月期)			11,198	1,761	1,022

# (2)個別業績

(単位:百万円)

		営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表	予想(A)	10,873	1,604	951
今回修正	予想(B)	9,900	1,900	1,100
増 減	額(B - A)	973	296	149
増 減	率(%)	8.9	18.5	15.7
前期実績		10,931	1,651	963
(平成 17年3	月期)			

### 2.業績予想修正の理由

## (1)個別業績

買取債権回収高が当初予想額を下回ったことにより営業収益は 9,900 百万円(対予想比 973 百万円減)に修正いたしましたが、効率的な管理回収の進捗により、債権回収原価につきましても当初予想額を大きく下回る見通しであることから、経常利益は 1,900 百万円(同 296 百万円増) 当期純利益は 1,100 百万円(同 149 百万円増)に上方修正いたしました。

### (2)連結業績

個別業績と同様の理由により営業収益は 15,900 百万円(対予想比 504 百万円減)に修正いたしました。一方、利益面につきましては、主な要因として、他の投資家との共同債権投資(買取)を目的に、連結子会社(何ジェイ・ワン・インベストメンツにおいて匿名組合出資を行い、当社で管理回収業務を受託している債権のうち、大型の一案件についての回収が進捗し、匿名組合出資収益の分配金約 800 百万円が発生したことなどから、経常利益は 4,000 百万円(対予想比 791 百万円増) 当期純利益は 2,300 百万円(同 440 百万円増)に上方修正いたしました。

なお、正確な業績数値は現在精査中であるため、期末の配当予想の修正に関しましては、平成 18 年 5 月 8 日予定の決算発表と併せてお知らせいたします。

#### 3.将来予測に関する記述について

本資料には、当社グループの意図、信念、現在及び将来の予測、または連結、個別の業績、財務状況に関する経営陣の意図、信念、現在及び将来の予測に関する記述が収録されております。記載されている歴史的事実以外の将来に関するすべての記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測であります。かかる将来予測に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、潜在的なリスクや不確実性を伴うものであり、実際の業績は様々な要因により将来予測に関する記述とは大きく異なる可能性がありますのでご留意ください。

実際の業績に影響を与えうる潜在的なリスクや不確実性を伴う要因には、以下のようなものが 含まれます。

- ・ 日本国内の経済環境の回復に伴う不良債権の流動化市場の収縮
- ・ 競争激化による特定金銭債権の買取価格の水準の高騰及び受託手数料の低下による利益率の 下落
- ・ 回収期間の長期化による収益性の悪化
- 債権管理回収業に関する特別措置法の改正
- ・ 好条件での資金調達先の有無及び金融政策等の変更による影響
- ・ 親会社である㈱ニッシンの事業戦略及び経営成績等
- ・ 当社の利用する情報、基幹システム及びネットワークシステムの信頼性

ただし、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではなく、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響等によって、新たなリスクや不確実な要素が発生する可能性があります。

以上